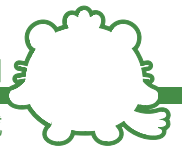




政策分野Ⅱ

第2節 子育て・教育・次世代育成

豊かな自然と人情の中で、安心して子どもを産み、子育てしやすい環境と、就学前から小・中・高までが連携した教育による次世代育成の体制を整えます。



まちづくりの基本方向2

出産から成人までのライフスタイルをつなげるまち

【主要分野】

【アンケート・地域懇談会・事業者団体ヒアリングの結果】

子育て・教育
次世代育成

- 住民の多くが、子育てや次世代の育成に力を入れたまちづくりを望んでいます。
- 「少子化対策・子育て支援策」、「幼児教育支援」、「小中学校教育支援」、「乳幼児支援」に対する満足度は平成27年と比較して高くなっており、一方で「小・中・高の医療支援」の施策に対する優先度は高くなっています。
- 「高校教育に対する支援の取組み」の満足度は大幅に上昇しているものの、施策に対する優先度も高くなっており、今後もさらに加計高校との連携の取組みを強化することが求められています。
- 子育て世代の多くは、町内に小児科を設置することなど、町内で安心して過ごせる小児医療環境を求めています。
- 英語やプログラミング教育など新たな必修科目が追加されることや、近年の学習意欲の向上などから、多様な学習機会を求めています。
- 少子化により学校行事や部活動などが限られてきていることなどから、卒業後、進学や就職によって慣れない大人数の場などへの不安を感じています。

【関連する分野】

生活利便性
環境

- 少子化により子ども同士が交流する機会が減少しており、中学生や高校生からは、公園や買い物をする場所、カフェなどの集える場所が求められています。
- またその交流の場集うための交通等の手段について、利便性が求められています。
- 安芸太田町の自然環境を象徴する国指定特別名勝三段峡などの自然環境を活かした教育を通して、環境保全への関心を高める必要があると感じています。
- 小中高生がスポーツなどを楽しめる環境の整備と、その場所にアクセスする手段が求められています。

コミュニティ

- 少子高齢化から地域ぐるみで子育てをする必要性が高まっており、世代を超えたコミュニケーションを持てる場づくりが必要だと感じています。
- 交通指導や朝のあいさつ運動など、地域で子どもたちの安全を守っていくことが必要だと感じています。



施策3 乳幼児期のあたたかい子育て環境を整えます

めざす住民の生活状態

○子どもを産み育てやすい環境、切れ目のない子育て支援が充実し、安心して出産・子育てをする住民が増えています。

現状と課題

本町の平成31年3月末時点の年少人口(0歳から14歳人口)は489人であり、5年前の平成26年の年少人口と比較すると10.1%減少し、出生数は平成28年以降減少傾向にあるなど、少子化が進行しています。

また居住地も散在していることから、近所の妊婦・子育て世代と交流する機会が少なく、出産・子育てに対し不安を抱える要因の一つとなっています。急速な少子高齢化が懸念される中、出産・子育てをすることができる環境の充実、切れ目のない子育て支援が必要となります。

国は、待機児童の問題、少子化等、子どもをめぐる問題解決のため、平成27年度から「子ども・子育て新制度」を定め、保護者の働きやすい、子育てしやすい社会の実現をめざし、認定こども園の普及や子育て支援の拡充を行っています。

本町においては、子育て世代における、乳幼児支援、医療支援、教育支援の満足度は高いものの、小児医療の支援や就学前教育の充実など子育て環境に関するニーズは多様化しています。

【町民意見・提言】

- 地元の若者が子育てをしたくて、帰ってくるような環境をととのえてほしい。
- 休日に外で遊べる公園や、寒い時屋内で遊べて遊具も使える施設等(体育館等)があったらよい。
- 自然でできる体験を増やしてほしい。森のアスレチックなど五感で森や自然を感じられるのびのびとした教育が必要だと思う。

施策の展開方針

平成27(2015)年から国の少子化対策として、「子ども・子育て新制度」が開始され、本町においても、さらなる子育て支援の充実に向け、住民ニーズを反映させた計画の実施を目指してきました。

本町では令和2年度、次代の安芸太田町を担う子どもの健やかな成長のために、「第2期安芸太田町子ども・子育て支援事業計画」を策定し、子どもの育ちと子育てを、地域社会をはじめ社会全体で支援していく取組みを総合的に推進します。

母子保健では、親となる心構えを含めた安全な妊娠・出産への支援、保護者の育児力向上をめざした子どもの健やかな成長発達への支援とともに、子どもの生活習慣病予防、命の教育を含めた思春期からの健康づくり、子どもの感染症予防への取組み等を関係機関と連携し推進します。

就業形態の多様化から、保育ニーズが高まる中、質の高い就学前教育と適切な集団規模を確保するための環境整備、スタッフの確保、相談事業の充実等それぞれの地域や保育所の特色を活かしながら保育サービスの充実を図ります。

また、放課後児童クラブや放課後こども教室について、住民ニーズを踏まえながら、子どもたちが放課後を安全で安心して過ごすことができる居場所の充実を図ります。

◆成果指標

No.	目標指標	現状値 (R1)	目標値 (R6)	担当課	指標データ 出典元
1	保育所・こども園待機児童数	0人	0人	児童育成課	待機児童数調査(町調)
2	この地域で子育てをしたいと思う親の割合	92.8%	95%	健康づくり課	乳幼児健診アンケート

◆関連する計画等

No.	関連する計画等	担当課
1	第2期安芸太田町子ども・子育て支援事業計画	児童育成課



◆個別施策

005 子育て支援の充実		担当課		児童育成課 健康づくり課 学校教育課					
<p>子育てしやすい施設・環境整備を図ることで、仕事と子育てが両立できる社会をめざし、ワーク・ライフバランス※の推進を図ります。また18歳未満のきょうだいにおける第2子保育料無償化など、国の施策に加えて、町独自の経済的な負担軽減策を実施することで、子育て環境のさらなる充実を図ります。</p> <p>また居住地が分散し、子育て世代の交流が少ないことから、妊婦交流会や離乳食教室等を通して、妊娠期からの子育て世代の交流機会の拡充を図ります。さらに、地域をはじめ、社会全体で子育て支援をしていく取組みを総合的に推進します。</p> <p>乳幼児期における教育・保育は、生涯にわたる人格形成及び小学校以降の教育の基盤を培う重要なものであり、就学前教育における新しい各要項・指針等を踏まえ、認定こども園等就学前教育・保育施設と小学校との円滑な連携を図り、教育・保育事業の向上を推進します。</p>									
主要事業		活動指標名		現状値 (R1)		目標値 (R6)		担当課	
1	妊娠期から子育て世代との交流 拡充【再掲】	支援センターだより発行 件数		12回		12回		児童育成課	
2	「育ちと学びをつなぐ」連携教育 事業	合同研修会の開催		3回		3回		学校教育課	
006 子ども乳幼児医療の充実		担当課		住民生活課 健康づくり 課					
<p>安心・安全な妊娠・出産・育児のための切れ目のない妊産婦・乳幼児保健対策の充実を図ります。また「すこやか相談」として、乳幼児の発育・発達・食事・歯に関する健康相談や育児相談を無料で実施することや、妊娠・出産や母乳等に関する相談ができる機会を設けるなど、安心して子育てができる環境づくりをめざします。</p> <p>また18歳までの子どもを対象に医療費の助成を行い、健全な育成を図るとともに子育て支援策の充実に取り組めます。</p>									
主要事業		活動指標名		現状値 (R1)		目標値 (R6)		担当課	
1	乳幼児・こども医療費給付事業	町広報による制度周知		1回		1回		住民生活課	
2	妊娠期から子育て世代との交流 拡充【再掲】	妊婦交流会と離乳食教室 開催数		4回		4回		健康づくり課	



認定こども園とごうちの園児と「もりみん」

※ ワーク・ライフ・バランス：仕事（ワーク）と、育児や介護、趣味や学習、休養、地域活動などの仕事以外の生活（ライフ）とのバランスを取るための様々な取組を指す。



施策4 夢と地域愛を育む学校教育を推進します

めざす住民の生活状態

○就学前から高校までの連携強化による学校教育の推進を通じて、地球・世界的規模の視野を持ち、進んで世界や地域社会に貢献していく健康で向上心のある子どもが育っています。

現状と課題

人口減少、少子化により児童・生徒数が減少し、小学校や中学校の小規模化が進んでいます。このような中で「お互いに学び合い、高め合う等、様々な考え方や経験を持った仲間との集団生活を通して、社会性やコミュニケーション能力を身につけていくこと」が課題となっています。また、地元加計高校の生徒数の確保と学校の存続が重要課題となっています。

【町民意見・提言】

- 地域の歴史についてもっと深く学習する機会があれば良い。
- 地域が一带となって子どもを育てていく姿勢が更に必要。
- 田舎で子育てしたいと思われる「特色づくり」に重点を置いてほしい。

施策の展開方針

子どもたちの学力向上、豊かな心の育成、健やかな体づくりのため、教職員の資質・指導力向上、人権・道徳教育の充実、体験活動の推進等を進めます。

また就学前から高校までの連携した教育により郷土に誇りを持ち、地域を担う人材育成を図ります。

国のめざす1人1台端末整備、高速大容量の通信ネットワーク整備及びクラウドの活用により、子どもたちの個別最適化された学びの実現に向けた取組みを進めるとともに、ICT※化の加速に伴うボーダレス時代に向け、コミュニケーション能力が発揮できるよう英語教育や異文化に触れ国際的な理解が深まる学びを推進します。

町内唯一の高校である加計高等学校については、「学校の魅力化」支援を行うことで「選ばれる高校」となり、地元進学率の向上と全国募集を展開し、生徒数の確保と加計高校の存続をめざします。

◆成果指標

No.	目標指標	現状値 (R1)	目標値 (R6)	担当課	指標データ出典元
1	全国学力・学習状況調査正答率の全国平均との差	小学校 (小6) 国語 +4.2 算数 -3.6 中学校 (中3) 国語 +0.2 数学 -3.8 英語 +4.0	各教科 +3ポイント 以上	学校教育課	全国・学力学習状況調査
2	加計高校の全校生徒数	100人	120人	企画課	加計高校生徒数調査(町調)



加計認定こども園あさひの子どもたち



加計高校



◆個別施策

007 「ふるさと教育」「自然を活かした教育」の推進		担当課	学校教育課 生涯学習課		
地域の豊かな自然や環境、独自文化等を活用した特色ある教育活動を行うことで、郷土に誇りを持ち地域を担う人材育成を行う。ふるさと回帰の潮流を促進します。					
主要事業		活動指標名	現状値 (R1)	目標値 (R6)	担当課
1	特色ある学校づくり補助金 (小学校)	小学校での地域学習の実施回数	12回	12回	学校教育課
2	特色ある学校づくり補助金 (中学校)	中学校での地域学習の実施回数	6回	6回	学校教育課
008 グローバル人材の育成		担当課	学校教育課		
グローバル人材育成のため、異文化を理解し他者と協働する力や、コミュニケーション能力の育成等、英語教育を通じたグローバル社会に生きる力の育成を図ります。					
主要事業		活動指標名	現状値 (R1)	目標値 (R6)	担当課
1	* ALT活用事業	小学校へのALT訪問回数	280回	280回	学校教育課
		中学校へのALT訪問回数	140回	140回	学校教育課
009 ICT*教育の更なる推進		担当課	学校教育課		
学力の向上をめざすとともに、グローバル化や急速な情報化による社会の変化や多様性をもたらす将来においても「生きる力をはぐくむ教育の推進」をめざします。					
主要事業		活動指標名	現状値 (R1)	目標値 (R6)	担当課
1	学校ICT整備事業	教師向けICT活用研修実施回数	2回	3回	学校教育課
2	小・中学校教育振興事業	町内小・中学校でのタブレット(可動式PC)一人一台を目標とした整備率	30%	100%	学校教育課
010 地域と加計高校の連携強化		担当課	企画課 学校教育課		
加計高校の魅力向上支援を行い、学校存続と地元愛をもった生徒育成に力を入れ、幼児教育から高校までの連携教育及び、地域との「繋がり」を大切にした活動の環境整備を行います。					
主要事業		活動指標名	現状値 (R1)	目標値 (R6)	担当課
1	コーディネーター設置	加計高校との連携協議回数	12回	12回	企画課
2	中高合同合宿	中高連携事業実施数	9回	9回	学校教育課
011 安心できる教育環境の整備		担当課	学校教育課		
「知徳体」の基礎基本の定着による確かな学力を育成、また社会を主体的に生きていくための「生きる力」を育成、活力ある地域づくりを担う人材を育成等、総合的な取り組みにより若者の教育環境整備を行います。					
主要事業		活動指標名	現状値 (R1)	目標値 (R6)	担当課
1	新しい学びプロジェクト事業(協調学習Coref(東京大学))	協調学習実施率(教員一人あたり年3回実施)	100%	100%	学校教育課
2	加計・筒賀共同調理場運営事業	学校給食における地場産物の使用率	31.8%	40%	学校教育課

* ALT:「Assistant Language Teacher(外国人指導助手)」の略で、外国語教育で、会話の指導等にあたる外国人補助教員を指す。



施策5 生涯にわたり誰もがいきいきと暮らせるまちをめざします

めざす住民の生活状態

○生涯学習環境や文化スポーツ環境が充実し、「いつでも・どこでも・誰でも」自己研鑽と交流の機会に参画できる環境が整っています。

現状と課題

生涯学習は、「いつでも・どこでも・誰でも」自由に学習でき、その成果を活かすことができる社会づくりを目指しています。家庭や地域の教育力の向上に向けた取組みを推進するとともに、学校、家庭、地域社会が連携して子どもを育てる環境づくりを進めることで、多様な交流機会を拡充する必要があります。

また近年スマホやタブレット機器などのデジタル機器が、キャッシュレス決済[※]や情報伝達媒体として主流化しており、特に高齢者などデジタル機器の扱いが不慣れな場合には、将来的に生活弱者となる可能性が社会的に指摘されています。

【町民意見・提言】

- 通信衛星などで教育が受けられ、それぞれのレベルに合った学習が出来る環境が必要。
- 図書館の本を更に、充実させてほしい。
- どこにでもある・どこでもできる講座ではなく、安芸太田町ならではの講座を開いた方がいい。

施策の展開方針

人と地域のつながりが実感できる生涯学習の充実を図るため、機能向上と人材育成の取組みを進め、いきいきとした人づくりと生涯学習のまちづくりを推進します。

また、地域内で子育てを学び合い、助け合いの機会を増やし、出産前から学童期まで段階に応じた家庭教育支援に取組みます。

さらに「いつでも・どこでも・誰でも」読書に親しめるように、読書活動の推進や図書館の充実を図ります。

地域固有の貴重な歴史文化を生かしたまちづくりは、まちの個性を高めるとともに、住民の地域への誇りを醸成するものです。

このため、伝統芸能や祭りの担い手育成支援、歴史的文化財の保存と活用を図るとともに、郷土学習の充実に努めます。このほか、住民の文化活動の支援を行うとともに、将来を担う子どもたちをはじめ、文化を育む人材育成に取組み、地域文化の振興を図ります。

◆成果指標

No.	目標指標	現状値 (R1)	目標値 (R6)	担当課	指標データ 出典元
1	新規講座開設数（累計）	0 講座	5 講座	生涯学習課	生涯学習年間活動実績報告
2	図書館貸出冊数	41,538 冊 (H30実績)	50,000 冊	生涯学習課	生涯学習年間活動実績報告

◆関連する計画等

No.	関連する計画等	担当課
1	安芸太田町子どもの読書活動推進計画（第2次計画）	教育委員会

[※] キャッシュレス決済：クレジットカードや電子マネー、口座振替等を利用して、紙幣・硬貨といった現金を使わずに支払い・受け取りを行う決済方法のこと。

◆個別施策

012		誰もが生涯活躍できる地域社会の実現			担当課	生涯学習課
<p>公民館、カルチャー教室の継続により、生きがいの創出、趣味を通して地域の活性化に寄与することを目的とし、地域のリーダー的な存在になり得るような指導者育成型の教室を企画・開講します。</p> <p>また社会的にはスマホでの施設予約やキャッシュレス決済等、情報通信機器を利用した相互のやり取りが主流となりつつあるため、カルチャー教室等を活用して、情報リテラシー（情報を引き出し、活用する能力）を養成できる機会の創出を図ります。</p>						
主要事業		活動指標名	現状値 (R1)	目標値 (R6)	担当課	
1	公民館講座	新規講座の希望調査回数	0回	2回	生涯学習課	
2	カルチャー教室	スマホ、タブレットを使ったインターネット活用教室の開催回数	0回	3回	生涯学習課	
013		子どもが集まる場所や機会の創出			担当課	生涯学習課
<p>家庭や地域の教育力の向上に向けた取組みを推進するとともに、学校、家庭、地域社会が連携して子どもを育てる環境づくりを進めます。</p>						
主要事業		活動指標名	現状値 (R1)	目標値 (R6)	担当課	
1	子ども会活動	活動の件数	4回	5回	生涯学習課	
2	放課後子ども教室推進事業	放課後、長期休業日に開設場所の確保	3カ所	3カ所	生涯学習課	
014		既存施設・資源の有効活用			担当課	生涯学習課
<p>時代の進展・変化に伴い高度化・多様化する町民の学習ニーズに対応するため、蔵書の充実を行うとともに、県内図書館との連携等により迅速かつ的確に必要な資料や情報の収集、提供に努めます。</p>						
主要事業		活動指標名	現状値 (R1)	目標値 (R6)	担当課	
1	図書館運営事業	児童、幼児向け図書冊数	27,000冊	28,250冊	生涯学習課	
2	文化財保護管理事業	三段峡の特性理解講座回数	4回	4回	生涯学習課	



川・森・文化・交流センター(教育委員会)



移動図書館 やまびこ号